

自立活動学習指導案

難聴通級指導教室（たいよう教室）1人（2年女子）

指導者 林 えりか

1 題材名 楽しく伝えよう

2 題材について

(1) 題材の価値

対象となる子どもは、第2学年の通常の学級に在籍し、日常生活において補聴器を常時装着している。補聴器装着時の聞こえも比較的良いことから、日常的な会話のレベルであれば、相手の話のある程度聞き取り理解することができる。また、発音に関しても明瞭であり、友達や教師と身の回りの出来事などの話をするのも好きである。さらに、読書をするのも好きであり、内容を読み取る力もあり、物語を好んで読んでいます。

一方で、通常の学級における授業の中では、自分の思っていることを言葉に出して発表したり、分からないことを質問したりすることに抵抗を感じている様子も見られる。これは、間違ふことへの抵抗感や、自信のなさからくる恥ずかしさに要因があると考えられる。また、話をする相手の口形や表情を見て、積極的に相手の話す内容を理解しようとする姿勢についてはこれまでも自立活動や在籍学級の指導においても指導を行ってきたが、まだ十分に身につけているとは言えない。また、聞き返しに対しては聞き返したことを称賛するなど指導を行ってきた結果、近くにいる教師に対して聞き取れなかったことや分からなかったことを質問することができるようになってきた。しかし、直接相手に聞き返しをすることにまでは十分に至っていない。さらに、自分の思いを伝える際に相手が聞き取りやすい声の大きさや速さでないために、友達や教師が聞き返す場面がある。これは、適切な声の大きさや速さを確認しにくいところに要因があると考えられる。

そこで本題材では、相手にクイズを出したり相手が出したクイズに答えたりする活動を行うことで、伝えることの楽しさを十分に味わうようにしながら、適切な声の大きさや速さを称賛することで、大切なことに気を付けて話そうという意欲を高めるようにする。また、クイズに答えたり、クイズの答えを聞いたりすることで、積極的に相手が伝えようとしていることを聞こうとしたり、聞き取れなかったことや意味が分からなかったことを自ら相手に聞き返そうとしたりする傾聴態度を身に付けることができるようにする。

指導に当たっては、まず教師が問題を出すときに、声の大きさを変えたり、速さを変えたりすることで、クイズを出す時にどんなことに気を付けたら良いか気付くことができるようにする。また、聞き取れなかったり意味が分からなかったりしたときに、聞き返すとポイントシールをもらうことで、積極的に聞き返すことができるようにする。そして、音の大きさのレベルを表示できるソフトウェアを用いて聞きやすい音量を視覚的に確かめることで、適切な声の大きさについてとらえることができるようにする。さらに、様々な速さで話す様子をVTRに撮り、聞き取りやすい速さについて自ら確認すると共に、母親や在籍学級の先生などにも聞き取りやすい速さについて感想を伝えてもらうことで、聞き取りやすい速さについても意識することができるようにする。クイズのやりとりを行う中で、適切な声の大きさや速さで伝えると相手に伝わることや、聞き返したことを称賛される経験を多く積むことで、自信をもって他者とコミュニケーションを図ることができるようにする。

このような学習を通して、対象児は、相手と楽しくコミュニケーションを図ることの喜びを感じながら、自分の思いを表現しようとしたり、聞き取れなかったり意味が分からなかったりしたときに聞き返すことで、自分が分かりやすい状況をつくったりすることができるように考える。そのことが、対象児の自信につながり、また、豊かなコミュニケーションにつながっていくと考える。

(2) 題材の目標

- 相手にクイズを出したり、相手の出したクイズに答えたりする活動を楽しむことができる。
- 適切な声の大きさや速さで相手に伝えることができる。
- 聞き取れなかったり意味が分からなかったりしたときは、聞き返そうという態度を身に付けることができる。

(3) 子どもの実態

教育的ニーズ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身の考えや思いを相手に伝わりやすい声の大きさや速さで、自信をもって伝えることができること。 ・ 聞き取れなかったり意味が分からなかったりしたときは、聞き返したり尋ねたりすることができること。 	
環境の把握	聴力	右	左
		裸耳 50 d B 補聴器装用時 28 d B	裸耳 48 d B 補聴器装用時 33 d B
コミュニケーション	語い・発音	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使うことのできる語いに関しては同学年の子どもと差は見られない。 ・ 発音は比較的明瞭であるが、s音が語中では、時々jの発音になることがある。 	
	コミュニケーションの実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近でない人との会話は、恥ずかしさから、言いたいことは決まっても小さな声で話すことがある。 ・ 集団の中では、自分の気持ちや考えを伝えることに抵抗が見られる。 ・ 相手の気持ちや状況を把握していないときがある。 ・ 分からないことや、あまり気乗りのしない出来事は「どっちでもいい。」と言葉を濁すことがある。 	
	傾聴態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話をする相手の方を見ると共に表情を見て、積極的に相手の話す内容を理解しようとする姿勢が十分とは言えない。 ・ 聞き取れなかった内容や理解できなかった内容を、相手に聞き返さないで、そのままにしていることがある。 	
	言語の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な出来事を3～5語程度の文をつなげて文章にして書くことができる。 ・ 読書量も多いことから、言葉の意味理解も当該学年の子どもと差はない。 	
	行動観察から(認知の特性)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞いたことを正確に書いたり、理解したりすることには多少の困難さはあるが、視覚的なものを手掛かりとしたり、簡単な言葉で丁寧に説明したりすることで、十分理解することができる。また、見通しがもてないような活動に対しては、不安になる傾向が強い。 ・ 負けず嫌いだったり、自分の思いをうまく伝えられずに、かたくなにだまりこんだり、周りの言葉を受け容れられなくなったりして、気持ちを切り替えるのに時間がかかることもある。 	

3 指導に当たって(研究との関連)

「どこまでができていて、どこからができないのかを明確にした授業づくり」

- 声の大きさについて数量で視覚的にとらえることで、通常の声の大きさを把握し、設定された場面においての目標値をちょっと頑張ればできそうな声の大きさに設定する。

「子どもの伝えたいという気持ちを高め、日常生活につながる単元や題材の工夫」

- 子ども自身が作ったクイズを多くの教師や友達に出すようにクイズ大会を設定することで、子どもが伝えたいという気持ちを高めることができるようにする。

「子どもの『見通しをもって学習する力』・『自分で決める力』・『他者に伝える力と聞く力』を育むICTの活用」

- 声の大きさのレベルを表示することができるソフトウェアを活用することで、声や音の大きさを視覚的にとらえることができるようにする。また、VTRで対象となる子どもの話す様子を録画することで、聞き取りやすい速さについて自ら確認することができるようにする。

4 指導計画（全8時間）

家庭や在籍校との連携

次	時間	指導のねらいと主な活動内容	目 標
一 次	1	<p>「クイズをしよう。」</p> <p>【指導のねらい】 声の大きさや読む速さに気を付ければよいことに気付くと共に、聞き取れなかったときには聞き返せばよいことを知り、今後の活動に見通しをもつことができる。</p> <p>【活動内容】 1 クイズを聞く。 2 クイズを出すときに大切なことを考える。 3 聞き取れなかったときに、どうしたらよいか考える。</p>	<p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通級指導教室で学習した内容や感想について家族に話すことができる。 <p>【在籍学級】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通級指導教室で学習した内容について在籍学級の担任に話すことができる。
	1	<p>「どれぐらいの大きさかな。」</p> <p>【指導のねらい】 音の大きさを視覚的にとらえると共に、聞きやすい声の大きさについても確認する。</p> <p>【活動内容】 1 CDプレーヤーの音で様々な音量を確かめる。 2 CDプレーヤーの音で適切な音量を視覚的にとらえる。 3 自分の声で適切な大きさを視覚的に確認する。</p>	<p>【家庭】【在籍学級】 (第1～8週)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通級指導教室での指導の内容や子どもの様子を連絡帳で知らせる。 <p>【家庭】 (第1～8週)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 分からないことを質問したり、聞き取れなかったことを聞き返したりしたときは、称賛してもらおうと共に、その状況を連絡帳で通級担当に知らせてもらう。 <p>【在籍学級】 (第1～8週)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 適切な声の大きさや速さで発表したり質問したりした時は称賛してもらおうと共に、その状況を連絡帳で通級指導担当に知らせてもらう。
	3 (本時3/3)	<p>「クイズを考えて出し合いっこをしよう。」</p> <p>【指導のねらい】 声の大きさや読む速さに気を付けて、教師とクイズを出し合うことができる。</p> <p>1時 声の大きさに気を付ける。 2時 聞きやすい言い方や速さに気を付ける。 3時 声の大きさや読む速さに気を付ける。</p> <p>【活動内容】 1 クイズを考える。 2 声の大きさや読む速さに気をつけて、教師にクイズを出す。 3 クイズの答えや教師の出すクイズが聞き取れなかったり、意味が分からなかったりしたときは、聞き返す。</p>	<p>【家庭】【在籍学級】 (第4～8週)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 在籍学級や家庭での日常生活の中で、聞きやすい声の大きさや速さで話したり必要に応じて聞き返したりした時は、ポイントカードに印を付け、十分に称賛してもらおう。また、クイズ大会を催してもらい、声の大きさや速さで話したり必要に応じて聞き返したりした時は、クイズ大会のポイントカードに印を付け、十分に称賛してもらおう。
二 次	3	<p>「いろいろな人とクイズ大会をしよう。」</p> <p>① 図書室の先生 ② 保健室の先生 ③ 校長先生</p> <p>【指導のねらい】 聞きやすい声の大きさや速さで話したり、聞き取れなかったり意味が分からなかったりしたときは聞き返したりすることができる。</p> <p>【活動内容】 1 適切な声の大きさと速さでクイズを出す。 2 聞き取れなかったことは聞き返す。 3 クイズ大会の感想を発表する。</p>	

5 本時 (5/8)

- (1) 目標 ○ 声の大きさや読む速さに気を付けてクイズを出すことができる。
 ○ 聞き取れなかったり意味が分からなかったりした時は、聞き返すことができる。

(2) 展開

☆はICT活用の留意点

時間(分)	主な学習活動	教師の指導
活動前	◎ 補聴器の点検をする。 ・ 本体やイヤホンの汚れ、電池残量のチェック	○ 補聴器をきれいに拭いたり、電池の消耗の程度を確かめたりすることで、補聴器を良い状態に保つことができるようにする。
つ	1 はじまりのあいさつをする。	☆ 前時の学習の聞き取りやすい速さについてVTRで提示することで、前時までの活動を想起しやすくすると共に、子どもと会話し受け答えの様子を観察することで、聞こえの状態を把握する。
か	2 前の時間の学習について振り返る。 ・ 聞き取りやすい速さについてVTRで確認する。	○ どんなことに気を付けたらよいか前時まで話し合った内容を提示することで、本時のめあてを確認しやすくする。
む (10)	・ 声の大きさのレベルを表すソフトウェアについて目標を確認する。	○ 会話の中で、s音の発音に誤りがある場合には、正しい音を聞いたり、口形を見たりすることでその場で言うことができるにする。
み	3 本時のめあてを確認する。	○ クイズを出す手順を視覚的にいつでも自分で確認できるように常時掲示することで、見直しをもって活動できるようにする。
と	みどり色のレベルのところになるような声の大きさや聞きとりやすいはやくさに気をつけて、クイズを出そう。	○ 動物や文具などカテゴリーごとの絵を提示することで、クイズの問題を考える参考にできるようにする。
お す (5)	(1) めあてについて話し合う。 (2) めあてを声に出して読む。 (3) ワークシートに書き写す。	☆ 声の大きさをテレビ画面上に視覚的に表すことで適切な声の大きさに気を付けてクイズを出すことができるようにする。
か	4 クイズを出し合う。	○ 声の大きさや速さに気を付けてクイズを出すことができるときは、称賛すること
つ	(1) クイズを出す手順を確認する。 ア クイズを考える。 イ クイズを出す練習をする。 ウ クイズを出し合う。	で、自信をもって声を出すことができるようにする。
ど	(2) クイズを考える。	○ 声の大きさや速さに気を付けて聞き返すことができたりした場合には、ワークシートにシールを貼り、称賛することで、めあての達成に意欲的になれるようにする。
う	(3) クイズを出したり、教師が出すクイズに答えたりする。	○ 教師がクイズの答えを言うときや、問題を出す時に、声の大きさを変えたり、速く言ったりすることで、聞き返すことができるようにする。また、その理由を問うことで、声の大きさや速さの大切さを意識することができるようにする。
す る (25)		○ 聞き返す時の話形を提示することで自信を持って聞き返すことができるようにする。
ふ	5 本時の活動を振り返り、自分の頑張ったことを発表する。 (1) めあてについて振り返る。 (2) 分かったことや頑張ったことを発表する。	○ 声の大きさや速さに気を付けて読むことができたりか今日の学習のめあてと結びつけて振り返り、称賛や励ましの言葉掛けをする。そして、日常生活の中でも生かしているとうとする意欲をもつことができるようにする。
り	6 次時の学習について知る。	○ 次時の学習の予告をし、クイズを書いた紙やクイズ大会のポイントカードを持ち帰らせることで、家庭でもクイズを出そうとする意欲を高めることができるようにし、家庭との連携を図ることができるようにする。
か え る (5)	7 おわりのあいさつをする。	